

個人情報保護に関する法律等の概要

第1章 総則

1 目的 (1条)

高度情報通信社会の進展に伴い個人情報の利用が著しく拡大
→ 個人情報の有用性に配慮しつつ、個人の権利利益を保護

2 定義 (2条)

「個人情報」…生存する個人に関する情報であつて、当該情報に含まれる氏名、生年月日その他の記述等により特定の個人を識別することができるもの（他の情報と容易に照合することができ、それにより特定の個人を識別することができることとなるものを含む）

「個人情報データベース等」…個人情報を含む情報の集合物であつて次のもの

- ①特定の個人情報を電子計算機を用いて検索することができるように体系的に構成したもの
- ②個人情報を一定の規則に従つて整理することにより特定の個人の情報を容易に検索することができるように体系的に構成した情報の集合物であつて、目次、索引その他検索を容易にするためのものを有するもの

「個人情報取扱事業者」…個人情報データベース等を事業の用に供している者（国、地方公共団体、独立行政法人等のほか、取り扱う個人情報の数が過去6月以内のいずれの日においても5000を超えない者を除く）

「個人データ」…個人情報データベース等を構成する個人情報

「保有個人データ」…個人情報取扱事業者が開示、訂正等の権限を有する個人データ

3 基本理念 (3条)

個人情報は、個人の人格尊重の理念の下に慎重に取り扱われるべきものであり、その適正な取扱いが図られなければならない。

第2章 国及び地方公共団体の責務等

1 国及び地方公共団体の責務 (4条、5条)

2 法制上の措置等 (6条)

- ・ 国の行政機関、独立行政法人等の保有する個人情報についての法制上の措置等
- ・ 個人情報の性質及び利用方法にかんがみ、適正な取扱いの厳格な実施を確保する必要がある個人情報についての法制上の措置等

第3章 個人情報の保護に関する施策等

第1節 個人情報の保護に関する基本方針 (7条)

- ・ 施策の総合的・一体的推進を図るための基本方針を国民生活審議会の意見を聴いた上で閣議決定

第2節 国の施策 (8条～10条)

- ・ 地方公共団体等への支援、苦情処理のための必要な措置等

第3節 地方公共団体の施策 (11条～13条)

- ・ 地方公共団体の保有する個人情報についての必要な措置
- ・ 区域内の事業者及び住民への支援、苦情処理のあっせん等の必要な措置

第4節 国及び地方公共団体の協力 (14条)

第4章 個人情報取扱事業者の義務等

第1節 個人情報取扱事業者の義務

(1) 利用目的の特定、利用目的による制限 (15条、16条)

- ・ 個人情報を取り扱うに当たり、その利用目的をできる限り特定
- ・ 特定された利用目的の達成に必要な範囲を超えた個人情報の取扱いの禁止 (次の場合を除く)
 - ①法令に基づく場合
 - ②人の生命、身体又は財産の保護のために必要がある場合であって、本人の同意を得ることが困難であるとき
 - ③公衆衛生の向上又は児童の健全な育成のために必要がある場合であって、本人の同意を得ることが困難であるとき
 - ④国、地方公共団体等の事務の遂行に協力する必要がある場合であって、本人の同意を得ることにより事務の遂行に支障を及ぼすおそれがあるとき

(2) 適正な取得、取得に際しての利用目的の通知等 (17条、18条)

(適正な取得)

- ・ 偽りその他不正の手段による個人情報の取得の禁止

(取得に際しての利用目的の通知等)

- ・ 個人情報を取得した際の利用目的の本人への通知又は公表 (あらかじめ公表している場合は除く)
- ・ 本人から直接書面に記載された個人情報を取得する場合の利用目的の明示
- ・ 利用目的を変更した場合の変更された利用目的の本人への通知又は公表
- ・ 次の場合は、上記は適用しない。
 - ①利用目的の通知・公表により、本人又は第三者の生命、身体、財産その他の権利利益を害するおそれがある場合
 - ②利用目的の通知・公表により、当該事業者の権利又は正当な利益を害するおそれがある場合
 - ③国、地方公共団体の事務の遂行に協力する必要がある場合であって、利用目的の通知、公表により、当該事務の遂行に支障を及ぼすおそれがあるとき
 - ④取得の状況からみて利用目的が明らかであると認められる場合

(3) データ内容の正確性の確保 (19条)

- ・ 利用目的の達成に必要な範囲内で個人データの正確性、最新性を確保 (努力義務)

(4) 安全管理措置、従業者・委託先の監督 (20条～22条)

- ・ 個人データの安全管理のために必要かつ適切な措置、従業者・委託先に対する必要かつ適切な監督

(5) 第三者提供の制限 (23条)

- ・ 本人の同意を得ない個人データの第三者提供の禁止 (次の場合を除く)

- ①法令に基づく場合

- ②人の生命、身体又は財産の保護のために必要がある場合であって、本人の同意を得ることが困難であるとき
 - ③公衆衛生の向上又は児童の健全な育成の推進のために特に必要がある場合であって、本人の同意を得ることが困難であるとき
 - ④国、地方公共団体等の事務の遂行に協力する必要がある場合であって、本人の同意を得ることにより当該業務の遂行に支障を及ぼすおそれがあるとき
 - ・ 本人の求めに応じて第三者提供を停止することとしており、第三者の提供を利用目的とすること、第三者に提供される個人データの項目等を本人に通知等しているときは、個人データを第三者に提供することができる
 - ・ 次により個人データの提供を受ける者は第三者に該当しない
 - ①利用目的の達成に必要な範囲において個人データの取扱いを委託する場合
 - ②合併その他の事業の承継
 - ③個人データを特定の者との間で共同して利用する場合であって、その旨や個人データの項目、共同して利用する者の範囲等について本人に通知等を行っている場合
- (6) 公表等、開示、訂正等、利用停止等 (24条～27条)
- (保有個人データに関する事項の公表等)
- ・ 保有個人データに関し、利用目的等を本人の知り得る状態に置かなければならない
- (開示)
- ・ 本人からの求めに応じた保有個人データの開示
 - ・ 次の場合は全部又は一部を開示しないことができる
 - ①本人又は第三者の生命、身体、財産その他の権利利益を害するおそれがある場合
 - ②当該事業者の業務の適正な実施に著しい支障を及ぼすおそれがある場合
 - ③他の法令に違反することとなる場合
 - ・ 保有個人データの全部又は一部を開示しない旨の決定をしたときは、本人に対し遅滞なくその旨を通知
- (訂正等)
- ・ 本人から保有個人データの内容が事実でないという理由によって内容の訂正、追加、削除が求められたときは、利用目的の達成に必要な範囲内において調査を行い、その結果に基づき訂正等を実施
 - ・ 訂正等を行ったときは、本人に対し遅滞なくその旨を通知
- (利用停止等)
- ・ 本人から保有個人データが利用目的による制限・第三者提供の制限に違反して取り扱われてる等の理由により利用停止・消去、第三者提供の停止を求められた場合であって、その求めに理由があると判明したときは、違反を是正するために必要な限度で利用停止等を実施又は第三者提供の停止
 - ・ 利用停止等を行ったときは、本人に対し遅滞なくその旨を通知
- (7) 苦情の処理 (31条)
- ・ 個人情報の取扱いに関する苦情の適切かつ迅速な処理 (努力義務)
- (8) 主務大臣の関与 (32条～35条)
- ・ この節の規定の施行に必要な限度における報告の徴収、必要な助言
 - ・ 個人情報取扱事業者が義務規定 (努力義務を除く) に違反し、個人の権利利益保護の

ため必要がある場合における勧告、勧告に従わない一定の場合の命令等

- ・ 主務大臣の権限の行使の制限（表現、学問、信教、政治活動の自由）
- (9) 主務大臣（36条）
- ・ 個人情報取扱事業者が行う事業等の所管大臣。規定の円滑な実施のために必要があるときは、内閣総理大臣が指定

第2節 民間団体による個人情報の保護の推進

(1) 団体の認定（37条）、対象事業者（41条）

- ・ 個人情報取扱事業者の個人情報の適正な取扱いの確保を目的として、苦情の処理等を行おうとする団体の認定
- ・ 認定団体による対象事業者（団体の構成員等）の氏名又は名称の公表

(2) 個人情報保護指針（43条）

- ・ 認定団体による個人情報保護指針の作成・公表

(3) 主務大臣の関与（46条～48条）

- ・ この節の規定の施行に必要な限度における報告の徴収
- ・ 業務の実施の方法の改善、個人情報保護指針の変更等についての命令
- ・ 認定基準に適合しなくなった場合、命令に従わない場合等における認定取消し

(4) 主務大臣（49条）

- ・ 対象事業者が行う事業等の所管大臣。規定の円滑な実施のために必要があるときは、内閣総理大臣が指定

第5章 雑則

- ・ 報道、著述、学術研究、宗教活動、政治活動の用に供する目的で個人情報を取り扱う報道機関、著述を業として行う者、学術研究機関等、宗教団体、政治団体については、第4章の適用を除外（50条1項）
 - ・ これらの主体は、安全管理、苦情処理等のために必要な措置を自ら講じ、その内容を公表するよう努力（50条3項）
- ※ この他、権限又は事務の委任、施行の状況の公表等について規定

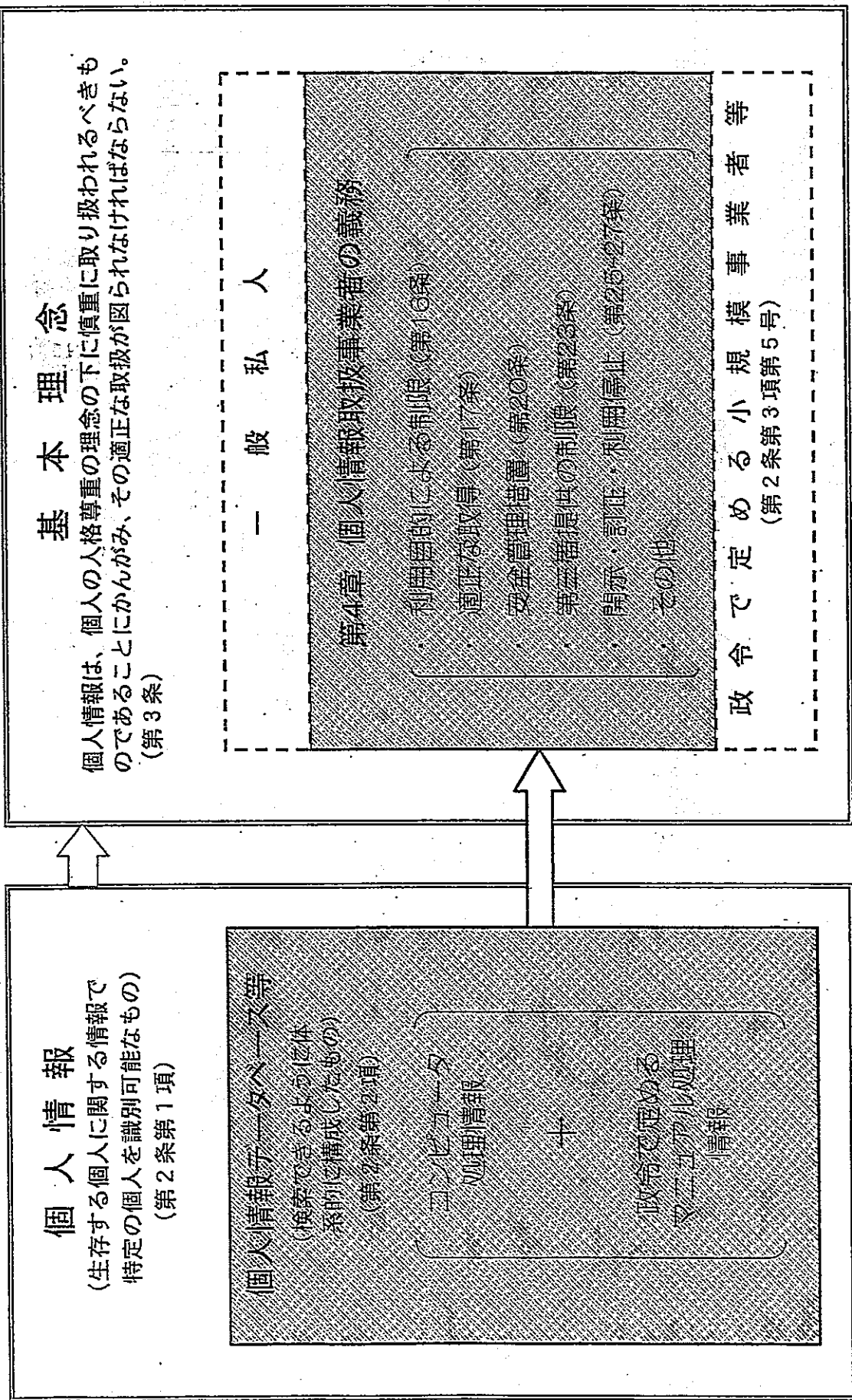
第6章 罰則

- ・ 個人情報取扱事業者が主務大臣の命令に違反した場合等における罰則（56条～59条）

附則

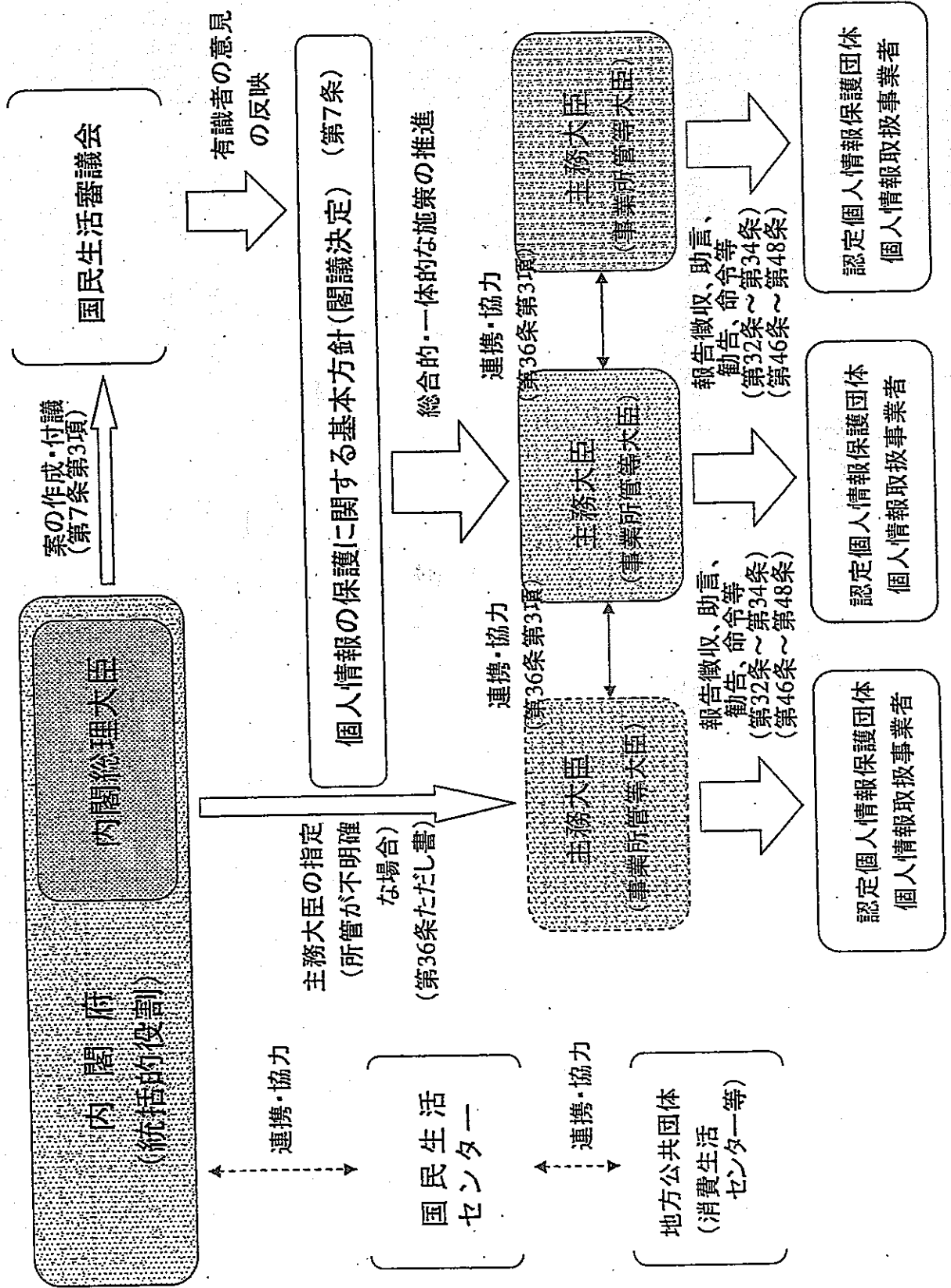
- ・ 公布の日（平成15年5月30日）から施行。第4章から第6章までの規定は、平成17年4月1日に施行（附則1条）
- ・ 経過措置（附則2条～6条）
- ・ 内閣府の所掌事務等に本法施行関係の事務を追加（附則7条）

対象となる個人情報、事業者の範囲等



※ 公的部門については、この法律の趣旨にのっとり、別途、法律・条例で対応。

個人情報保護法に係る政府の実施体制について



OECD8原則と個人情報取扱事業者の義務規定の対応

OECD8原則

<p>○ <u>目的明確化の原則</u> 収集目的を明確にし、データ利用は収集目的に合致すべき</p> <p>○ <u>利用制限の原則</u> データ主体の同意がある場合、法律の規定による場合以外は目的以外に利用してはならない</p> <p>○ <u>収集制限の原則</u> 適法・公正な手段により、かつ情報主体に通知又は同意を得て収集されるべき</p> <p>○ <u>データ内容の原則</u> 利用目的に沿ったもので、かつ、正確、完全、最新であるべき</p> <p>○ <u>安全保護の原則</u> 合理的な安全保護措置により、紛失・破壊・使用・修正・開示等から保護するべき</p> <p>○ <u>公開の原則</u> データ収集の実施方針等を公開し、データの存在、利用目的、管理者等を明示するべき</p> <p>○ <u>個人参加の原則</u> 自己に関するデータの所在及び内容を確認させ、又は意義申立を保証するべき</p> <p>○ <u>責任の原則</u> 管理者は諸原則実施の責任を有する</p>
--

個人情報取扱事業者の義務

<p>○ 利用目的をできる限り特定しなければならない。(第15条)</p> <p>○ 利用目的の達成に必要な範囲を超えて取り扱ってはならない。(第16条)</p> <p>○ 本人の同意を得ずに第三者に提供してはならない。(第23条)</p>
<p>○ 偽りその他不正の手段により取得してはならない。(第17条)</p>
<p>○ 正確かつ最新の内容に保つよう努めなければならない。(第19条)</p>
<p>○ 安全管理のために必要な措置を講じなければならない。(第20条)</p> <p>○ 従業者・委託先に対し必要な監督を行わなければならない。(第21、22条)</p>
<p>○ 取得したときは利用目的を通知又は公表しなければならない。(第18条)</p> <p>○ 利用目的等を本人の知り得る状態に置かなければならない。(第24条)</p> <p>○ 本人の求めに応じて保有個人データを開示しなければならない。(第25条)</p> <p>○ 本人の求めに応じて訂正等を行わなければならない。(第26条)</p> <p>○ 本人の求めに応じて利用停止等を行わなければならない。(第27条)</p>
<p>○ 苦情の適切かつ迅速な処理に努めなければならない。(第31条)</p>

* 各義務規定には適宜除外事あり。